

令和4年6月7日

## 京口門だより No. 104

爽やかな5月の日々をあまり感じないうちに梅雨の季節に入ってきました。この時季はちょうど白い細長い、独特のにおいのする栗の花が咲きます。この栗の花が落下する季節は、「墜栗花」(ついで)とって「梅雨入り」を意味する言葉だそうです。「樹も草もしづかにて梅雨はじまりぬ」(日野草城)

長雨が続くと大変うっとおしくなりますが、今回触れる耳の病気も命にかかわる病ではありませんが、日常生活や仕事のうえでうっとおしく、困難をきたします。その意外に多い病気というのが「突発性難聴」です。普段から元気な40~50歳台の人に突然発症する病気で、片方の耳が急に聞こえなくなり(難聴)、耳鳴りや耳の閉塞感が起こり、ときにメマイを伴うこともあります。現代でも原因がはっきりせず。メニエール病とまちがえられることもあります。メニエール病は回転性のメマイを主として、難聴や耳鳴りを伴うことがありますのでしっかりと区別されるべきです。突発性難聴は統計によれば年間2万5千人くらいの人に起こるといわれています。

突然片方の耳が聞こえなくなるので驚いて耳鼻科や内科を訪れ、診療の結果突発性難聴と診断されれば、副腎皮質ホルモン(ステロイド)の注射が始められます。また高圧酸素療法といった治療を受けますが、1ヶ月以内の回復が認められない場合や、メマイを伴う場合には回復困難とされてしまいます。回復困難といわれても病気の本人は途方に暮れてしまいます。

そのような場合は現代医療とは異なった漢方治療を試みることを是非お勧めします。私どもの経験では、原因不明で難治といわれている「突発性難聴」も漢方的な見方をすると内耳の血流障害をきたしていると思われるケースには釣藤散という薬を、耳管狭窄をきたし耳の閉塞感の強いケースは柴蘇飲という薬を、あるいは難治で難聴や耳閉塞感の強い場合は通明利気湯といった薬を用いて効果を挙げています。その他いくつかの漢方薬が有効と思われます。

また突発性難聴には鍼治療が有効であることが認められています。鍼は耳内の血流をよくし、緊張を緩めてくれます。

